

お聞かせください

避難生活の中で感じていること、困っていること。除染や賠償、村の事業などについて聞いてみたいこと。ジャンルは問いません。皆さんの声をお聞かせください。



小林 洋子さん(小宮)

これからは時々本庁にも行きたいと思っています。お借りしている飯野支所もありがたいですが、本庁は自分たちの場所だなあとほっとします。

あたたかな言葉をかけていただき、ありがとうございます。

7月1日より、村役場の多くの部署が本庁舎で業務を行っています。また、健康福祉課が「いちばん館」、生涯学習課が「飯館村交流センター（旧公民館）」で業務を行うようになりました。一方、村民の避難生活を直接的に支える生活支援係は、住民課窓口と共に、飯野支所に置いています。

避難先から遠くなりご不便をおかけすることもあると思いますが、村内に宿泊したり、一時帰宅したりする際には、活気の戻った本庁舎を、どうぞのぞいてみてください。役場職員も一丸となって、避難指示解除に向けた課題に、一つひとつ取り組んでいきます。



大井 美千子さん(草野)

帰村する予定ですが、隣近所はどのくらい戻れるのかなど、不安はありますね。これからは仮設住宅から離れる人も増えていきそうですね。

今後、避難指示解除に向け、生活再建の動きが進んでくると思われます。しかし、避難生活が5年も続き、ご家庭ごとの状況が変化しており、生活の再建は容易なことではありません。村では、国や県の生活支援策が急激に変化しないよう、かねてより要望しているところです。仮設住宅・借り上げ住宅の供与延長についても、実情に応じた対応を取ってもらえるよう要望しています。

村内では、長期宿泊が始まる中で、新たな課題が見えてくることと思います。どうぞ避難前のように役場にお出かけいただき、遠慮なく困りごとの相談や状況の確認などをしていただければと思います。

村は、帰村する皆さんの不安を少しでも軽くできるよう、インフラや商業施設の整備、営農や事業の再開支援にまい進し、防犯や放射線リスクへの対策なども講じながら、避難指示解除に向けた環境整備を、いっそう力強く進めていきます。



七夕の麦わら馬

七夕に合わせ、7月6日の夕方に、麦わらで馬を作り、屋根に上げるといふ風習がありました。家に馬が1頭あれば2つ、2頭あれば3つというように、麦わらの馬は、それぞれの家の馬の数より1つ多く作りました。これを「七夕様を迎えに行く馬」と言う地域と、「先祖の霊を迎えに行く馬」と言う地域とがあり、後者は、ナスやキュウリで牛馬を作る盆行事に近い意味合いを持っていたようです。やせている馬の姿を形容して、「七夕様の馬のようだね」と言うこともあったそうです。

飯桶地区では、大きいものと小さいものと、2種類の馬を作っていました。大倉地区には、「11個作ると良い」という言い伝えもありました。

また、若竹に五色の短冊をつける七夕飾りも作られました。短冊には、願い事を書いたり、「天の川」と書いたりしました。8日になると、七夕飾りは、大根畑に立てられました。これには虫よけの意味があったと言われます。この日を目安に、着物の虫干しをするところも多かったそうです。

七夕行事は、古来から行われていた畑の収穫祭や盆迎えの行事と、中国から伝わった星伝説や風習とが合わさって形作られてきたようです。七夕の馬を作る風習は、東北や関東の各地で見られたそうですが、作り方も意味合いも、少しずつ違ってきます。



村で作られていた麦わら馬



誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
佐藤 蒼汰くん	正・薫	飯桶町

すくすくと元気に育ってね



おくやみ

氏名	年齢	行政区
深見 和弘	55	上飯桶
鈴木 あい子	71	比曾
荒 クニ子	87	二枚橋・須萱
齋藤 金男	98	八木沢・芦原
早川 ヒデ子	86	宮内

ご冥福をお祈り申し上げます

(5月21日から6月20日までに届け出のあったものを掲載)  
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

編集後記

震災直後から現在まで、村には多くの義援金や寄せられています。住所が分かる方だけで1万人を超えています。匿名で寄付される方もいますので、中には、何度も寄付してくださる方もいらっしゃいます。村ではこの気持ちに少しでも応えたいと、震災記録誌「4年半のあゆみ」を送付しました。すると、日本全国から便りが届きはじまりました。「村の復興のために力を合わせておられること、震災や原発事故を忘れてはいけないこと、改めて感じました」「復興に向けた強い思いに感動しました。どうか避難指示解除からの真の再生・復興が成し遂げられてゆきますことを遥かに願っております」感謝の言葉を胸に新たな一歩を歩んでいきましょう。

(木幡)